

平成 21 年 6 月 29 日

各 位

2009 年 3 月期決算説明会資料の一部訂正について

2009 年 5 月 15 日に開催いたしました「2009 年 3 月期決算説明会」の資料の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正させていただきます。

なお、6 月 25 日開催の定時株主総会決議通知等とともに株主の皆様へ郵送しております「事業活動のご報告」の 4 ページの上段に同内容のグラフを掲載しておりますが、本訂正後の内容で読み替えていただきたくお願い申し上げます。

記

1. 訂正ページ

13 ページ「ネット生産量長期予測」

2. 訂正内容

別紙のとおりであります（訂正部分には下線を付しております。）。

3. 訂正理由

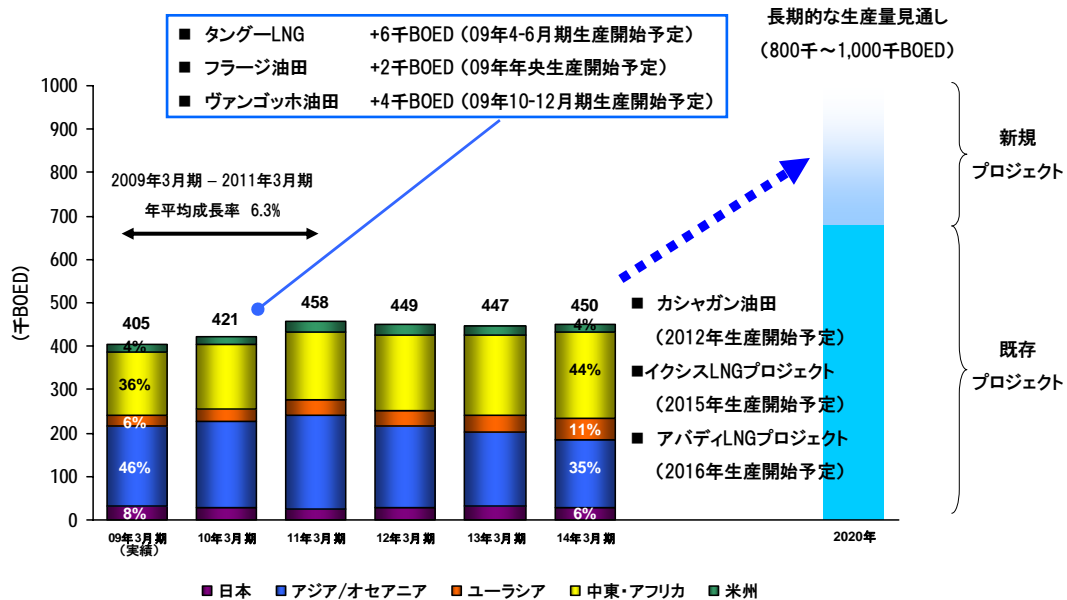
米州地域の生産量に含まれるフラージ油田の生産量の数字に一部誤りがあったため訂正するものであります。

以上

訂正前

ネット生産量長期予測

INPEX



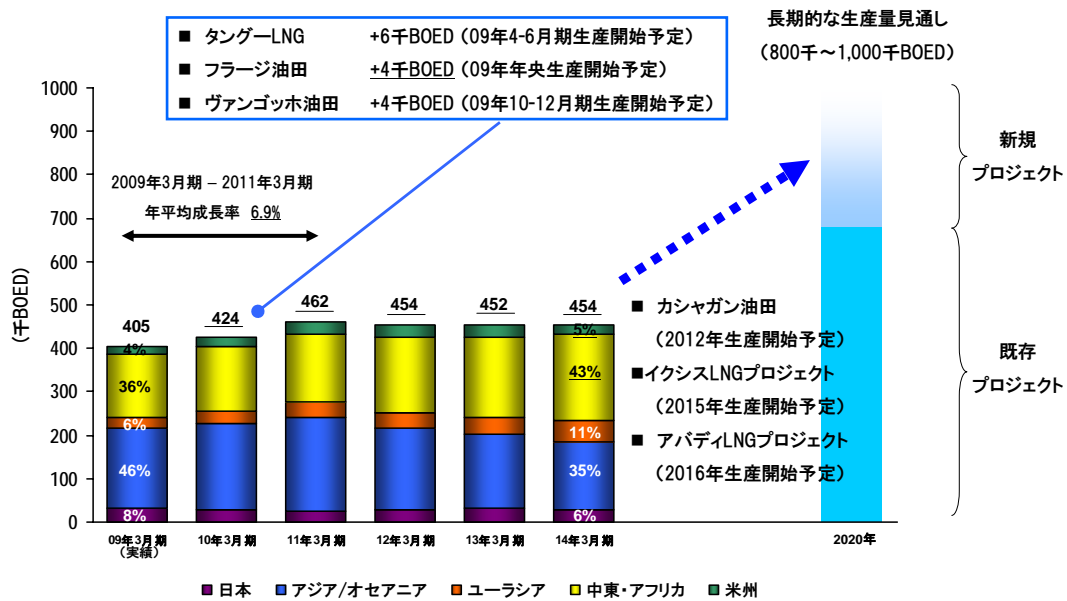
13

* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

訂正後

ネット生産量長期予測

INPEX



13

* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

2009年3月期 決算説明会

国際石油開発帝石株式会社

2009年5月15日

- 事業活動報告
- 今後の見通し
- 2009年3月期 決算説明
- 2010年3月期 業績予想

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

事業活動報告

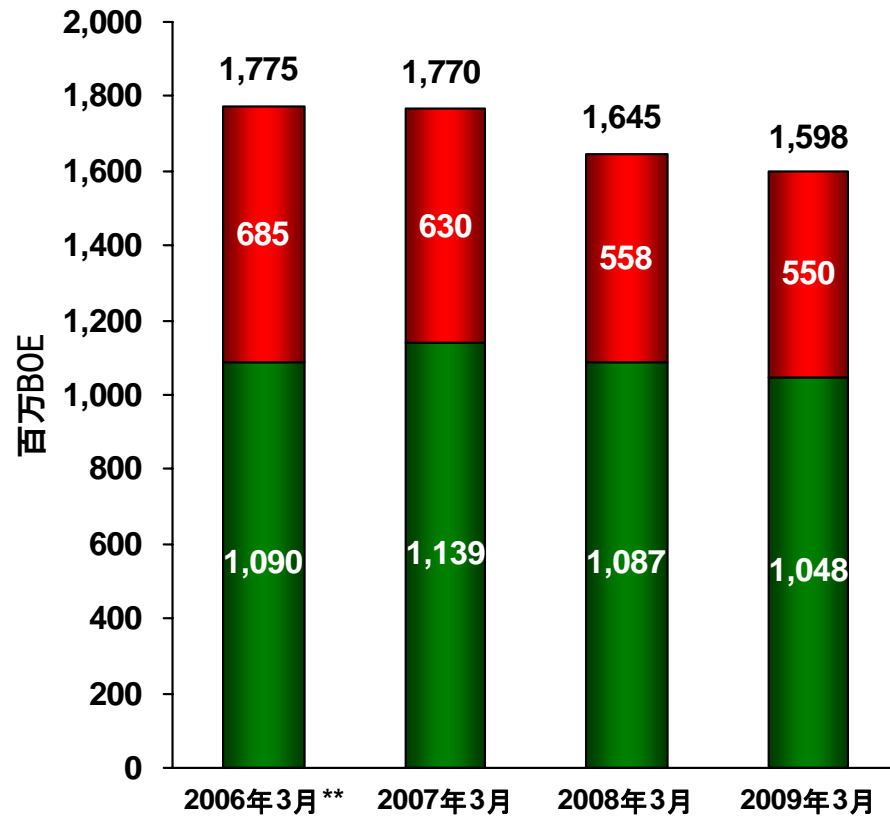
代表取締役社長
黒田直樹

- 2008年10月、国際石油開発及び帝国石油は完全統合
- 2008年7月に油価は史上最高値をつけた後、世界的な景気後退の中で大幅に変動したこと、また円高などの厳しい経営環境の中、純利益は16%減少
- イクシス、ADMA鉦区、カシャガン油田等の埋蔵量の追加により、確認+推定埋蔵量は1割弱増加
- ACG油田の利益配分原油のシェア変更などにより、ネット生産量は4%減少
- 新規探鉦プロジェクトの権益を積極的に取得(インドネシア、豪州、ブラジル)
- 中長期の成長ドライバーであるイクシス/アバディLNGプロジェクトの開発準備作業を着実に推進中

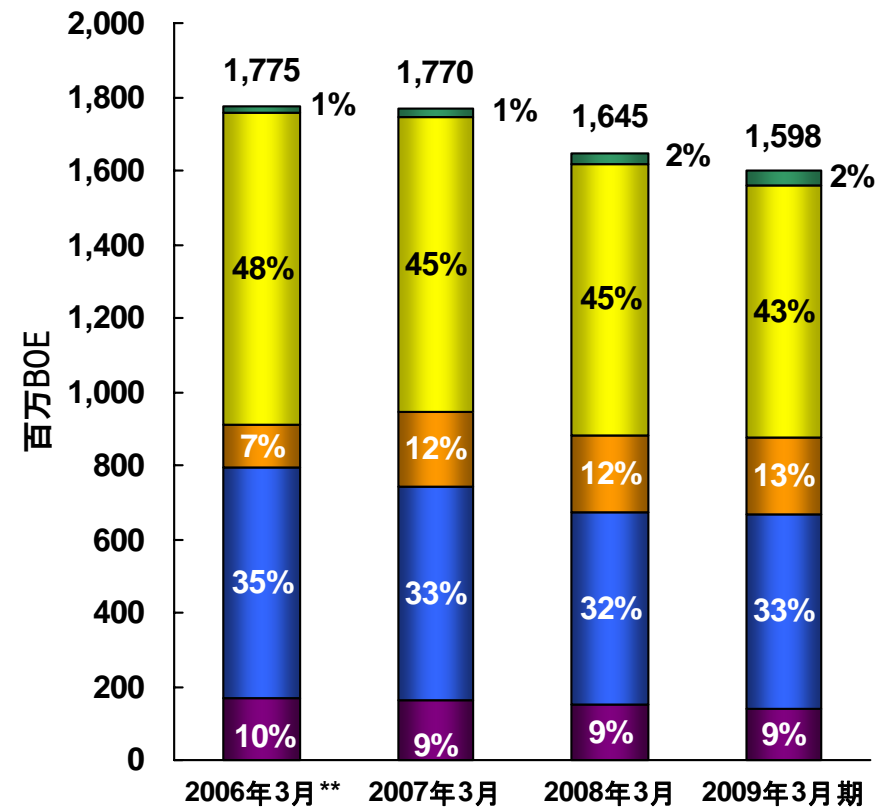
確認埋蔵量*



製品別



地域別



■ 原油/コンデンセート/LPG

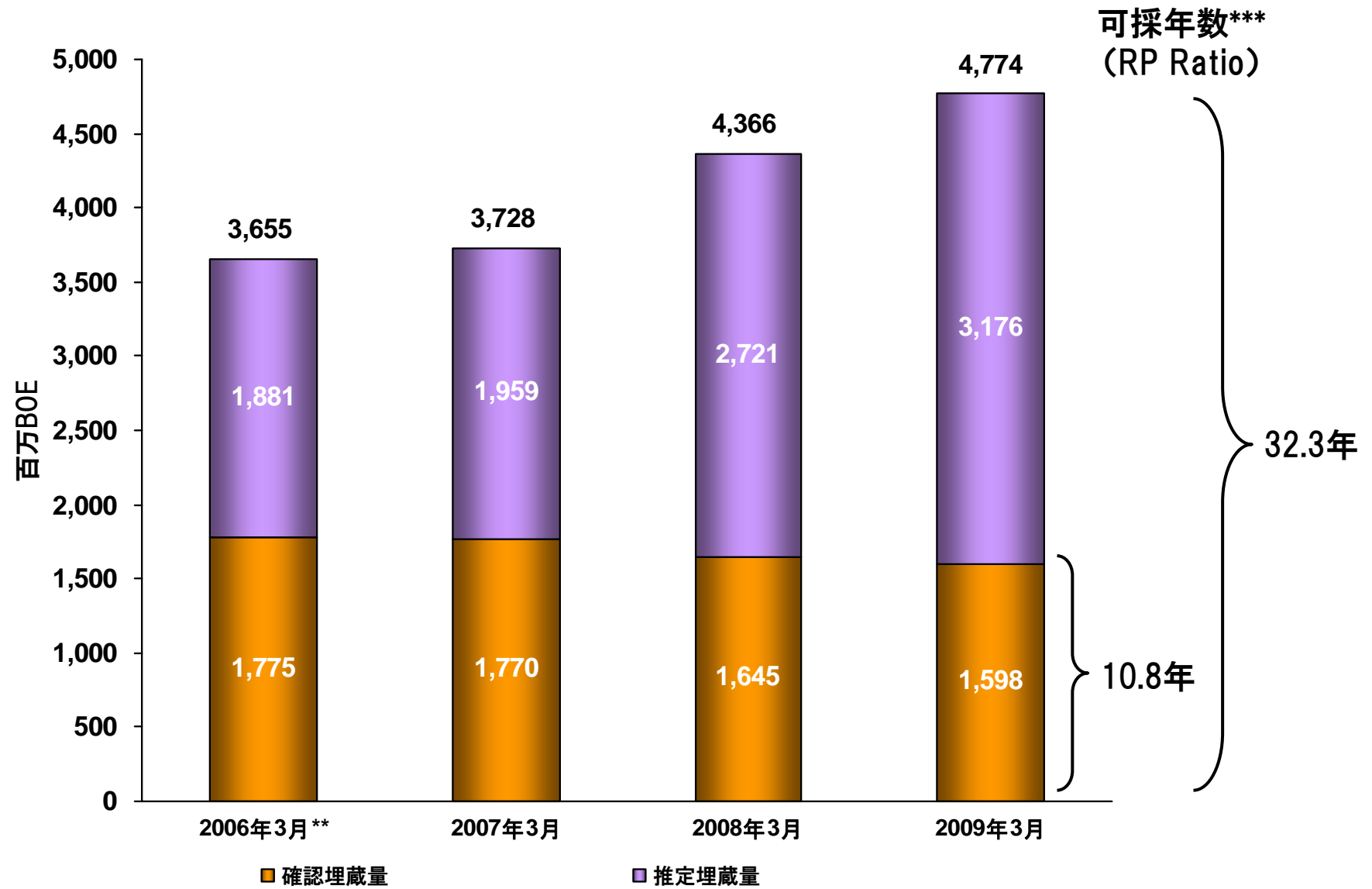
■ 天然ガス

■ 日本 ■ アジア・オセアニア ■ ユーラシア ■ 中東・アフリカ ■ 米州

* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。DeGolyer & MacNaughton社の評価対象外の埋蔵量は含まない。持分法適用会社の持分を含む。

** 2005年度に国際石油開発と帝国石油との統合が行われたと仮定した場合の合算値。

確認+推定埋蔵量*の推移

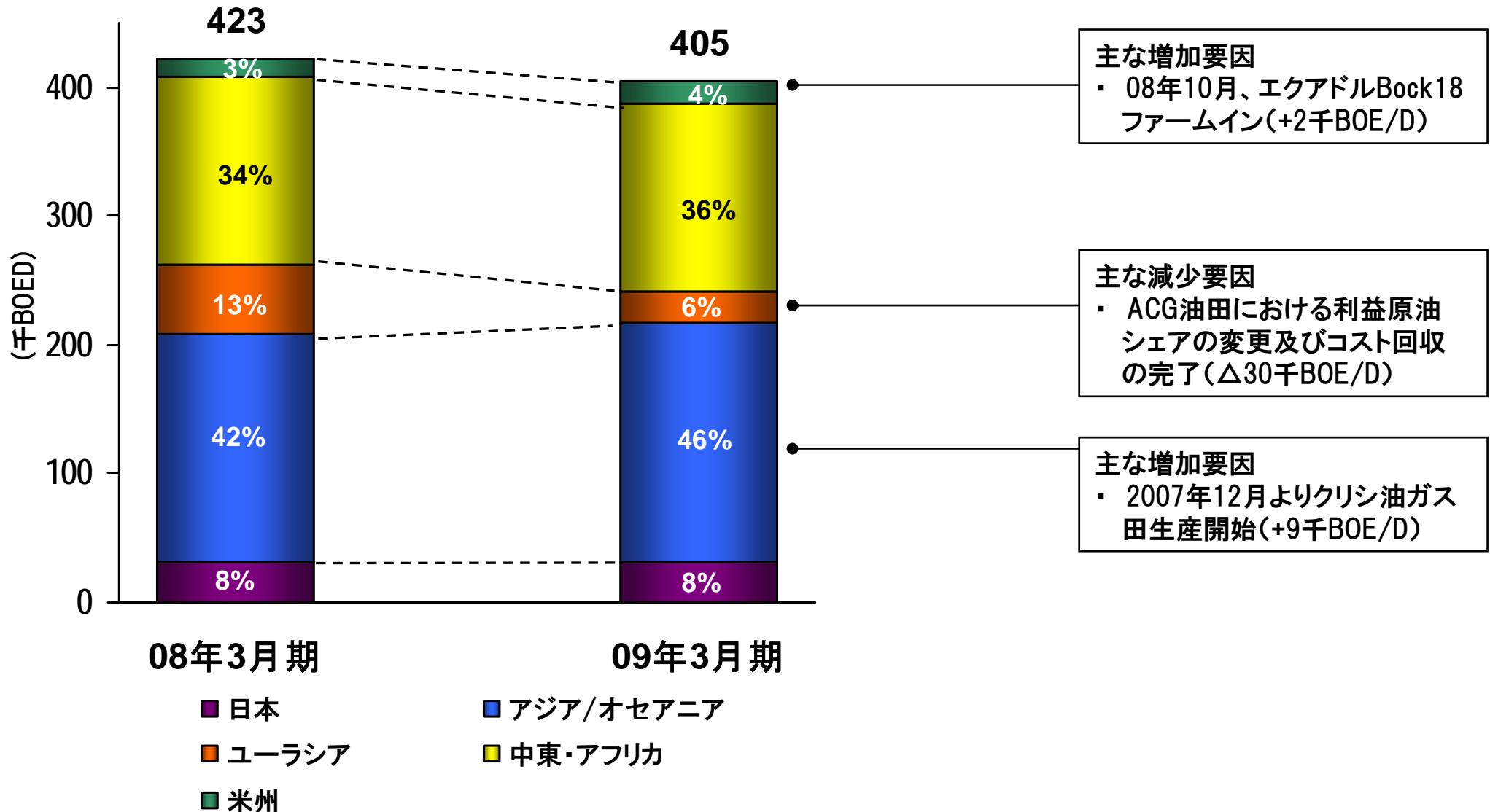


* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。推定埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSIに従った数値。DeGolyer&MacNaughton社評価対象外の埋蔵量を含まない。持分法適用会社の持分を含む。

** 2005年度に国際石油開発と帝国石油との統合が行われたと仮定した場合の合算値。

*** 可採年数=2009年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2009年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

2009年3月期 ネット生産量*

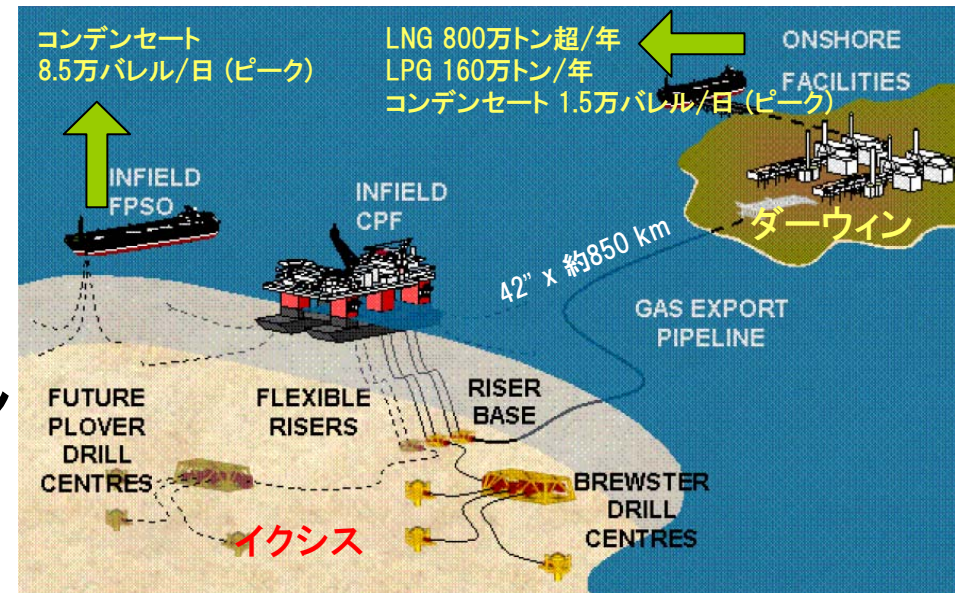


* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

イクシスLNGプロジェクト

INPEX

- 2008年9月にガス液化プラント建設予定地を北部準州ダーウィンに決定
- 基本設計作業(FEED)
 - 2009年1月 ガス液化プラント部分開始
 - 2009年4月 海上生産施設・パイプライン部分開始
- 生産量(予定): LNG年間800万トン超
LPG年間160万トン
コンデンセート日量10万バレル(ピーク時)
- 最終投資決定(FID)予定: 2010年
- 生産開始予定: 2015年



開発コンセプトの概要

アバディLNGプロジェクト

INPEX

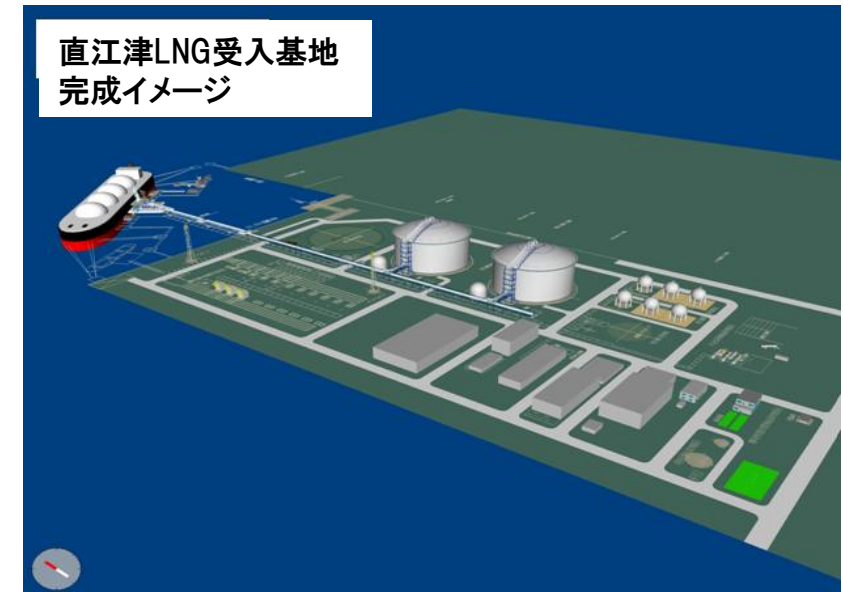
- 2008年9月に開発計画(POD)をインドネシア政府(BPMIGAS)に提出し、その後、同開発計画について基本承認を取得
- 開発計画の要旨
 - Floating LNG
 - LNG生産規模：年間450万トンを超え30年以上
 - 生産開始目標：2016年
- 2009年末までに基本設計(FEED)を開始
- 最終投資決定(FID)目標：2011年



FLNGイメージ図

■ 直江津LNG受入基地

- 2008年8月新潟県上越市(直江津港)にLNG受入基地建設の最終投資決定
- 建設工事費及び土地取得費用など、投資額は約1,000億円



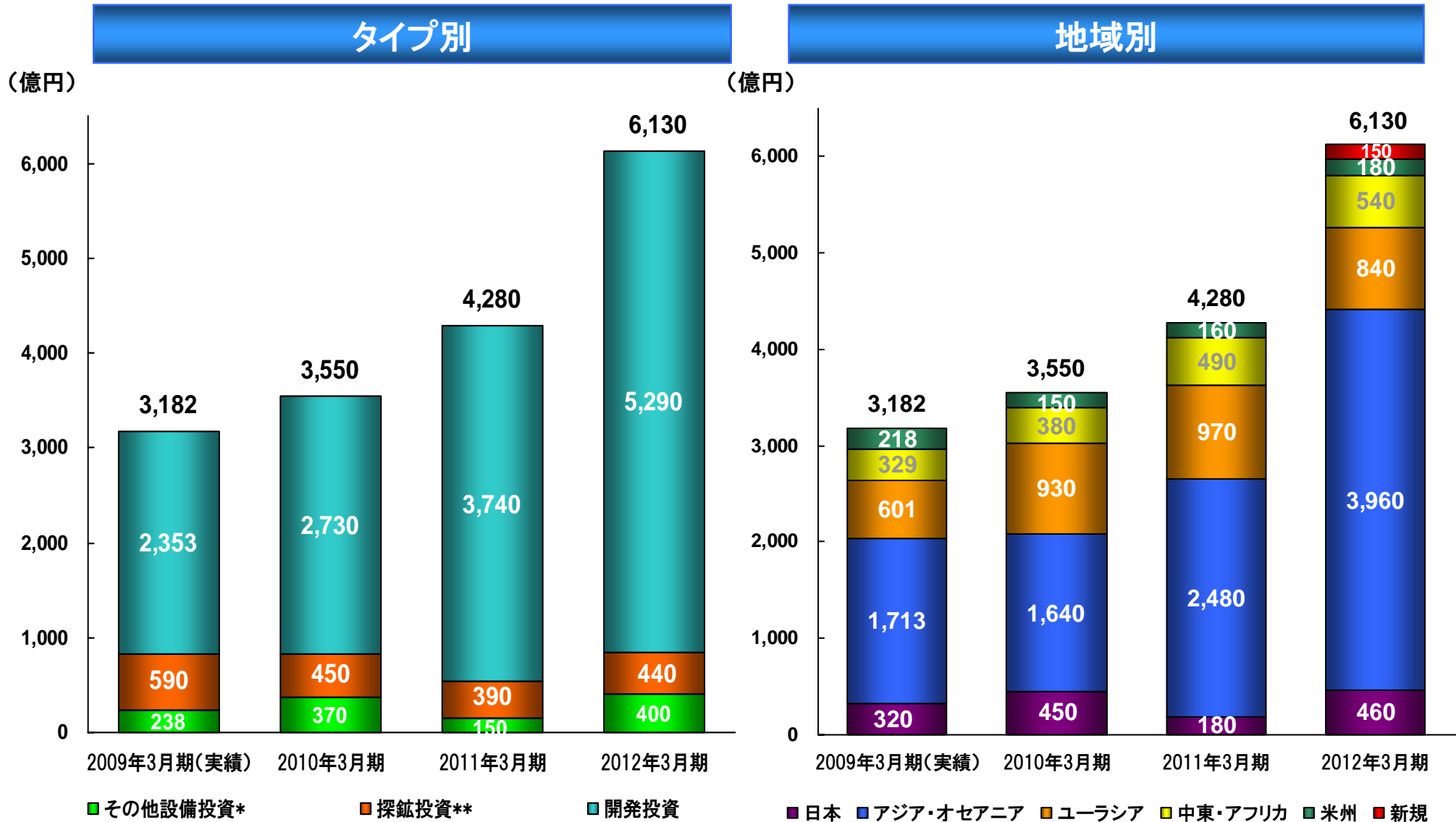
■ 2010年3月期の国内天然ガス販売計画

- 昨年度下期からの景気後退により、既存需要の減退傾向が継続し、合計販売数量は約3%減少する見込み
(09年3月期) 1,625百万m³ → (10年3月期) 1,577百万m³
- 国産ガス価格は、LNG価格水準との乖離を段階的に是正する方針

今後の見通し

代表取締役社長
黒田直樹

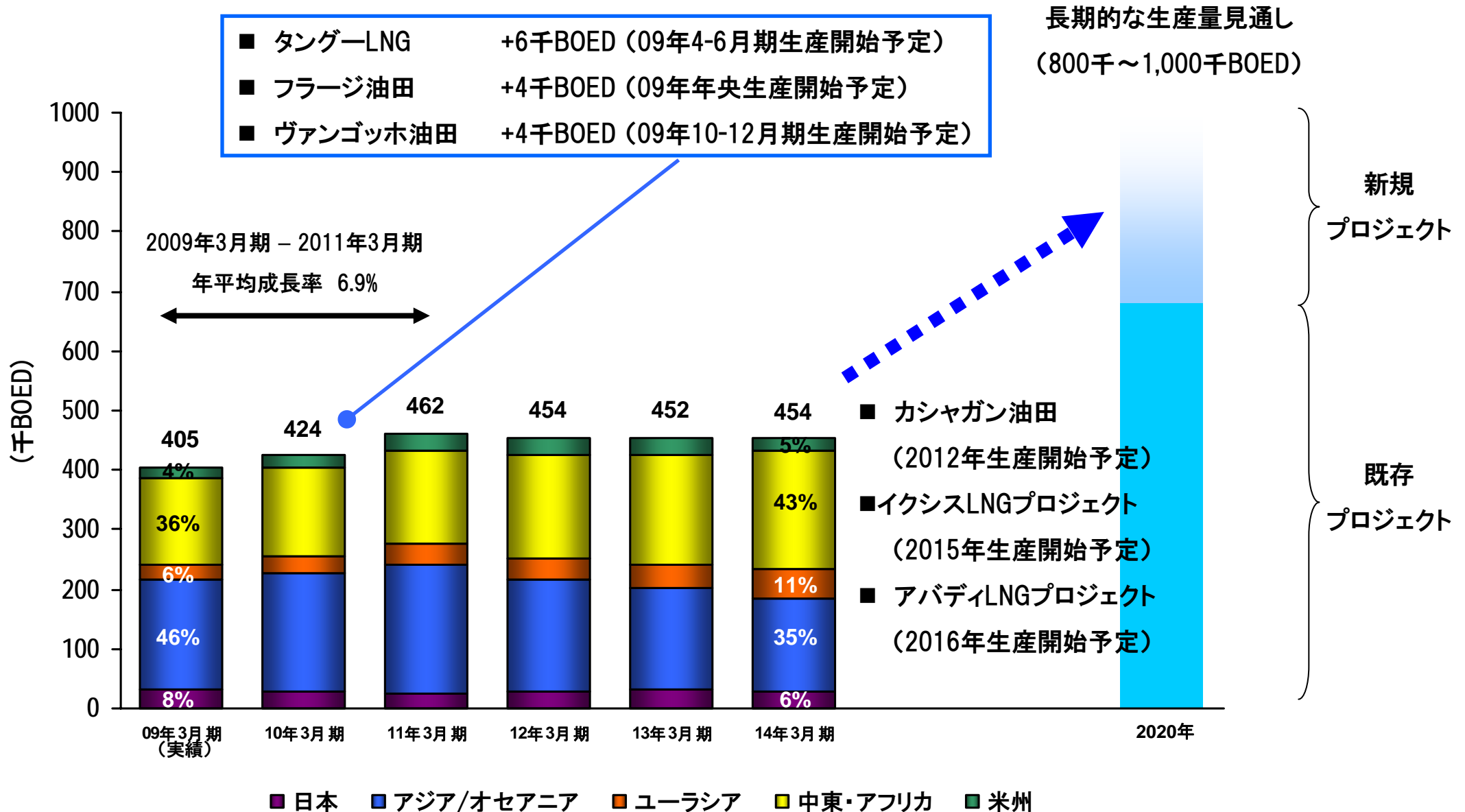
投資計画



* 主に直江津LNG受入基地、国内パイプラインへの投資。

** 権益取得費を含む。

ネット生産量長期予測



注)油価は2010年3月期は通期52.5ドル、以降60ドルフラットを前提にネット生産量を試算。

2009年3月期 決算説明

取締役

副社長執行役員

財務・経理本部 本部長 藤井睦久

2009年3月期 決算ハイライト



	08年3月期	09年3月	増減	増減率
売上高 (億円)	12,029	10,761	△1,268	△10.5%
原油売上高	7,834	6,503	△1,331	△17.0%
天然ガス売上高(LPG含む)	3,910	3,982	71	1.8%
その他	284	275	△8	△3.0%
営業利益 (億円)	7,142	6,632	△509	△7.1%
経常利益 (億円)	6,857	6,161	△696	△10.2%
純利益 (億円)	1,732	1,450	△281	△16.3%
1株当たり純利益 (円)	73,510.14	61,601.60	△11,908.54	△16.2%

期中平均株式数(連結)2009年3月期累計 2,354,852株

原油売上高

	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	7,834	6,503	△1,331	△17.0%

販売量 (千bbl)	85,716	75,427	△10,288	△12.0%
海外平均単価 (\$/bbl)	80.07	82.70	2.63	3.3%
国内平均単価 (¥/kl)	62,225	65,829	3,604	5.8%
平均為替 (¥/\$)	113.65	103.17	10.48円高	9.2%円高

地域別販売量 (千bbl)	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
日本	408 (65千kl)	241 (38千kl)	△167 (△27千kl)	△41.0%
アジア・オセアニア	13,445	12,958	△487	△3.6%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	19,609	8,664	△10,944	△55.8%
中東・アフリカ	52,177	52,641	464	0.9%
米州	77	923	846	1,091.9%
合計	85,716	75,427	△10,288	△12.0%

天然ガス売上高(LPG除く)



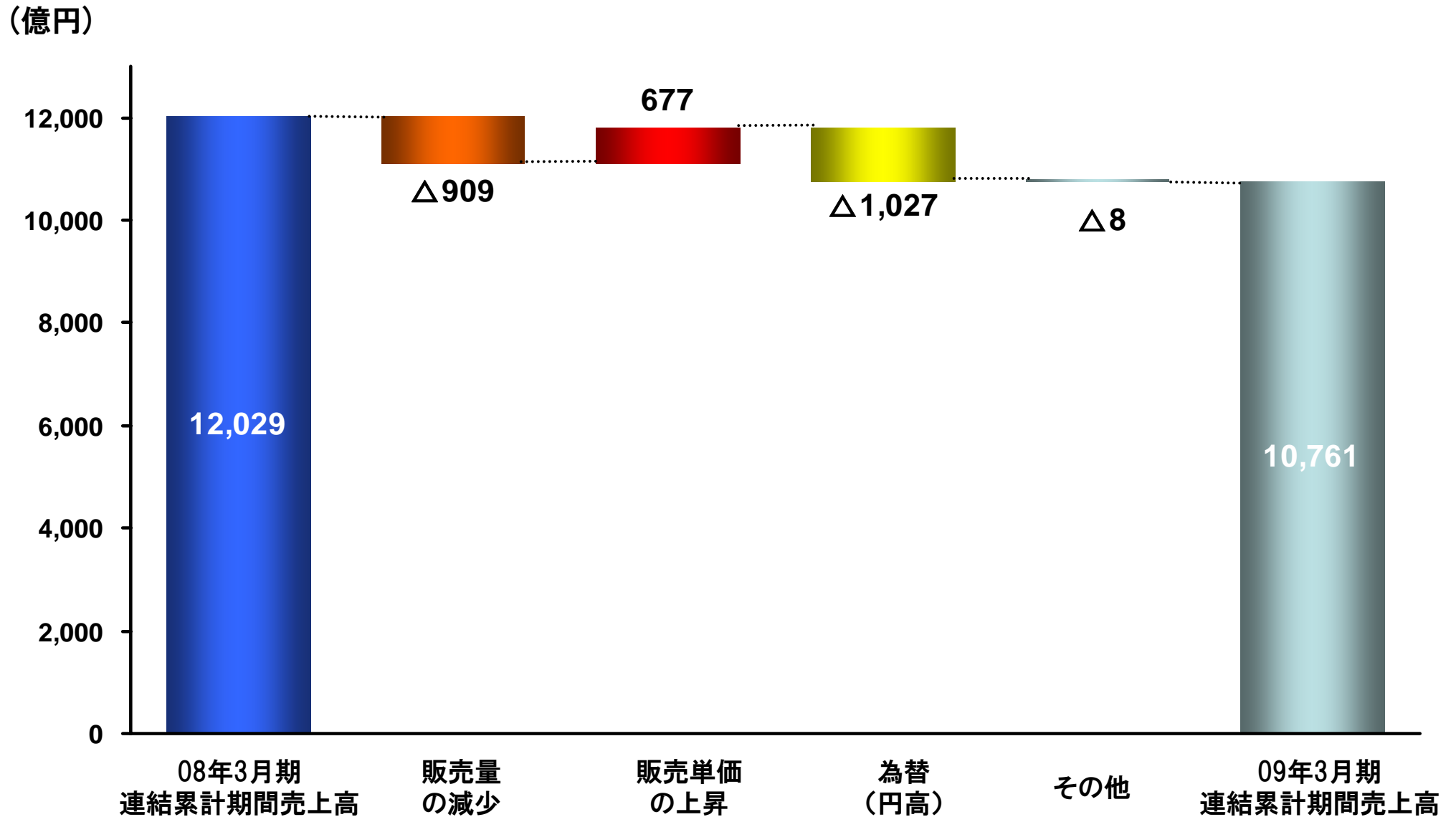
	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	3,789	3,824	34	0.9%
販売量 (百万cf)	402,081	401,076	△1,005	△0.3%
海外生産分平均単価 (\$/千cf)	8.26	9.22	0.96	11.6%
国内生産分平均単価 (¥/m ³)	35.70	37.39	1.69	4.7%
平均為替 (¥/\$)	113.78	102.47	11.31円高	9.9%円高

地域別販売量 (百万cf)	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
日本	61,846 (1,657百万m ³)	60,629 (1,625百万m ³)	△1,217 (△33百万m ³)	△2.0%
アジア・オセアニア	310,458	310,744	286	0.1%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	29,777	29,703	△75	△0.3%
合計	402,081	401,076	△1,005	△0.3%

※ なお、LPGの売上高は以下の通り。

	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	121	158	37	30.9%

2009年3月期 売上高 増減要因分析



損益計算書

(億円)	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
売上高	12,029	10,761	△1,268	△10.5%
売上原価	3,905	3,190	△715	△18.3%
探鉱費(補助金控除後)	340	259	△81	△23.8%
販売費及び一般管理費	641	678	37	5.9%
営業利益	7,142	6,632	△509	△7.1%
営業外収益	330	320	△10	△3.2%
営業外費用	615	791	176	28.7%
経常利益	6,857	6,161	△696	△10.2%
法人税等	4,968	4,882	△85	△1.7%
法人税等調整額	△55	△178	△123	225.0%
少数株主利益	212	7	△204	△96.6%
純利益	1,732	1,450	△281	△16.3%

原油売上：	6,503
(増減)	△1,331
天然ガス売上(注)：	3,982
(増減)	+71

原油売上原価：	2,206
(増減)	△638
天然ガス売上原価(注)：	808
(増減)	△79

注) LPGを含む。

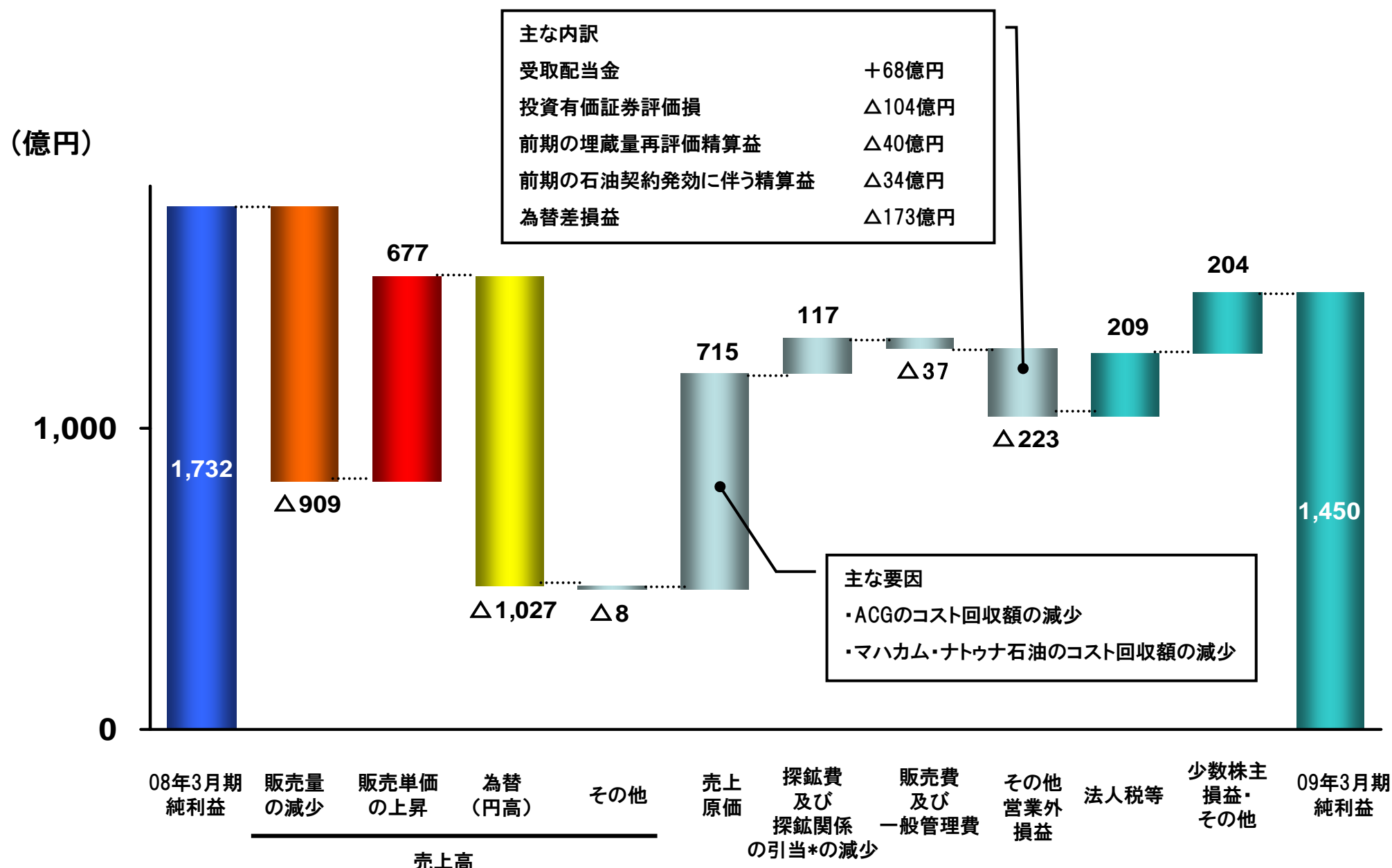
営業外収益・費用

(億円)	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
営業外収益	330	320	△10	△3.2%
受取利息	109	95	△14	△13.2%
受取配当金	54	123	68	126.8%
持分法による投資利益	17	9	△8	△46.4%
埋蔵量再評価精算益	40	-	△40	△100.0%
石油契約発効に伴う精算益	34	-	△34	△100.0%
為替差益	27	-	△27	△100.0%
その他	46	92	45	97.5%
営業外費用	615	791	176	28.7%
支払利息	108	39	△69	△63.9%
生産物回収勘定引当金繰入額	205	166	△39	△19.2%
探鉱事業引当金繰入額	31	33	2	9.1%
投資有価証券評価損	213	317	104	48.9%
為替差損	-	145	145	-
その他	55	87	32	57.9%

前期はバユ・ウダンガスプロジェクトにおける隣接鉱区との埋蔵量再評価による精算益

前期はベネズエラ(ガスグアリコ)における石油契約発効に伴う過年度分(06.4-12)精算益

2009年3月期 純利益 増減要因分析



*生産物回収勘定引当金繰入額及び探鉱事業引当金繰入額

貸借対照表

(億円)	08年3月期末	09年3月期末	増減	増減率	
流動資産	5,651	4,111	△1,540	△27.3%	ヴァンゴッホ油田、イクシス等への投資
有形固定資産	2,544	2,976	431	17.0%	
無形固定資産	2,654	2,536	△117	△4.4%	
生産物回収勘定	3,831	4,539	707	18.5%	カシャガン油田、マハカム沖鉱区、マセラ鉱区等への投資
その他	4,111	4,395	284	6.9%	
生産物回収勘定引当金	△714	△878	△163	22.9%	
資産合計	18,079	17,680	△398	△2.2%	
流動負債	3,252	2,060	△1,192	△36.7%	インペックス南西カスピ海石油の長期借入金の返済等
固定負債	2,438	1,999	△438	△18.0%	
純資産	12,388	13,620	1,232	9.9%	
(うち少数株主持分)	814	909	94	11.7%	
負債・純資産合計	18,079	17,680	△398	△2.2%	
1株当たり純資産 (円)	491,168	540,100	48,932	10.0%	

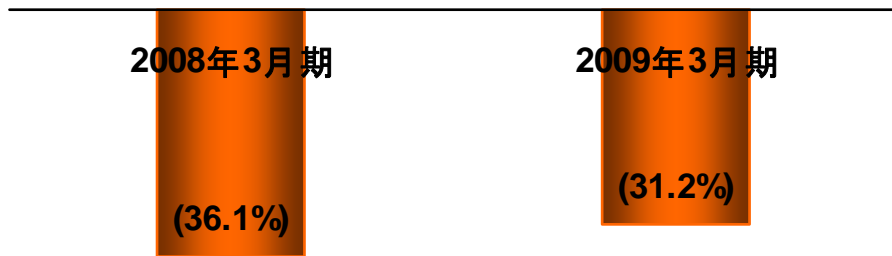
キャッシュフロー

(億円)	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
税金等調整前当期純利益	6,857	6,161	△696	△10.2%
減価償却費	361	429	67	18.8%
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	921	457	△464	△50.4%
生産物回収勘定(非資本支出)の増加額	△260	△270	△9	3.7%
投資有価証券評価損	213	317	104	48.9%
法人税等の支払額	△4,568	△5,307	△739	16.2%
その他	113	515	401	352.8%
営業活動によるキャッシュフロー	3,639	2,303	△1,336	△36.7%
有形固定資産の取得による支出	△594	△886	△291	49.0%
有価証券・投資有価証券の取得による支出・売却による収入(ネット)	△1,007	△285	721	△71.7%
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△1,310	△1,082	227	△17.4%
その他	294	△147	△442	△149.9%
投資活動によるキャッシュフロー	△2,617	△2,401	215	△8.3%
財務活動によるキャッシュフロー	△452	△460	△8	1.9%
現金及び現金同等物の期末残高	2,222	1,628	△594	△26.7%

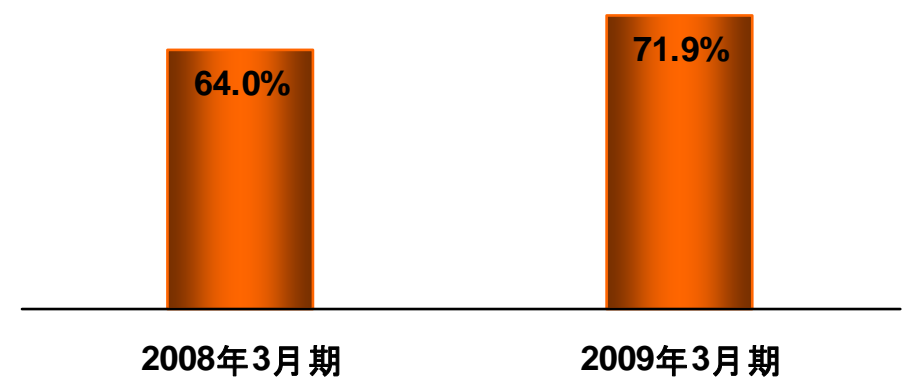
財務指標

INPEX

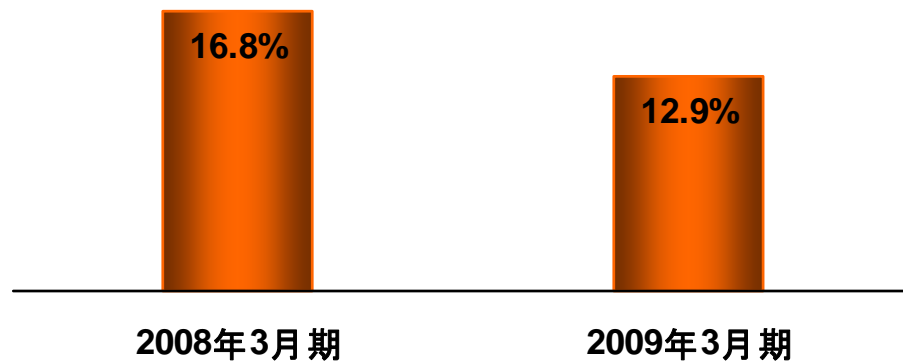
純有利子負債／使用総資本(ネット)*



自己資本比率**



D/Eレシオ***



- * 純有利子負債／使用総資本(ネット) = (有利子負債－現金及び預金－国債・地方債・社債等(時価のあるもの)－MMF・現先・譲渡性預金)／(純資産＋有利子負債－現金及び預金－国債・地方債・社債等(時価のあるもの)－MMF・現先・譲渡性預金)
- ** 自己資本比率 = (純資産－少数株主持分)／総資産
- *** D/Eレシオ = 有利子負債残高／(純資産－少数株主持分)

2010年3月期 業績予想

取締役

副社長執行役員

財務・経理本部 本部長 藤井睦久

2010年3月期 連結業績予想



	2009年3月期(実績)	2010年3月期(予想)	増減	増減率
Brent 油価(\$/bbl)	85.7	52.5	△33.2	△38.7%
為替レート(円/US\$)	100.5	95.0	5.5円高	5.5%円高
売上高 (億円)	10,761	6,690	△4,071	△37.8%
営業利益 (億円)	6,632	3,010	△3,622	△54.6%
経常利益 (億円)	6,161	2,810	△3,351	△54.4%
純利益 (億円)	1,450	560	△890	△61.4%

1株当たり配当金 (円)	中間	4,000	2,500
	期末	4,000	2,500
	年間	8,000	5,000

2010年3月期 販売量・投資額(予想)



		2009年3月期(実績)	2010年3月期(予想)	増減	増減率
販売量	原油 (千バレル) ¹	75,427	79,283	3,856	5.1%
	天然ガス (百万cf) ²	401,076	396,024	△5,052	△1.3%
	うち海外分	340,447	337,170	△3,277	△1.0%
	うち国内分	60,629 (1,625百万m ³)	58,854 (1,577百万m ³)	△1,775 (△48百万m ³)	△2.9%
	LPG (千バレル) ³	2,067	2,653	586	28.4%

		2009年3月期(実績)	2010年3月期(予想)	増減	増減率
開発投資額 (億円)		2,353	2,730	377	16.0%
その他設備投資額 (億円)		238	370	132	55.5%
探鉱投資額 ⁴ (億円)		590	450	△140	△23.7%
探鉱費および 探鉱関連引当額 ⁵ (億円)		460	396	△64	△13.9%
うち少数持分負担額 ⁶ (億円)		89	68	△21	△23.6%

- 注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29バレルを使用
 2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m³=37.32cfを使用
 3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5バレルを使用
 4 権益取得費を含む
 5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額を記載
 6 少数株主損益として計上され、純利益には影響しない少数株主による増資見合い分

原油価格・為替レートのセンシティブリティ **INPEX**

■ 油価・為替変動の2010年3月期当期純利益に与える影響額(試算)

油価1ドル 上昇(下落)した場合	+21億円(△21億円)
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合	+17億円(△17億円)

(注) 原油価格(Brent)を1ドル変動させた場合、為替を1円変動させた場合の2010年3月期の当期純利益に対する影響額をそれぞれ試算したものです。

影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、また、油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。